

農村ミュージアム化とフットパスコースの設置

― 自立(地方創生)を目指す小さな農村集落の取り組み ―



2015 年 9 月

2016 年 9 月(補記)

新潟県南魚沼市浦佐

浦佐地域づくり協議会

(組織の詳細は <http://urakyou14.com/>)

目 次

1	はじめに（企画の目的）	4
2	事業地域における現状と事業化の意義について	5
3	期待と効果について	6
4	事業目的と事業地域について	7
5	実施体制について	9
6	事業スケジュールについて	10
7	収支計画について	10
8	その他、参考資料	11



1 はじめに（企画の目的）

○ 事業地の地勢

南魚沼市浦佐地域は新潟県の南部に位置し、関東圏から主要な玄関口となっている。また地域は鉄道と高速道路が整備され、日本有数の豪雪地帯でありながら数万人が暮らし、世界的にも特異な地域となっている。冬には積雪が 3 メートルにも達しますが、春 4 月には一斉の芽吹きを季節を迎えます。夏には盆地特有の高温・高湿度となり、秋には日々色を変えるドラマチックな紅葉期へと移ります。やがて来る冬の季節は“色の無い世界”となって、これほどまでに四季の移ろいを身近に体感できる魚沼、とりわけ「雪国浦佐」は素晴らしいと思います。

地域へのアクセスは比較的良く、「新幹線浦佐駅」「高速道路 IC」「国道 17 号」と整備され、関東圏からは 2～3 時間程度で訪れることが可能となっている。

事業の中心地である「五箇」地域は国道 17 号が南北に通り、並行して JR 上越線と八色駅がある。地勢的には西に魚沼丘陵があって、地区の南北方向は魚野川まで丘陵地が迫り、東側は魚野川が流れているため、丘陵と河川に挟まれた交通路以外閉ざされた地域となって、工場・大規模店舗、公共施設等のない純農村地域となっている。

○ 五箇地域の概況

五箇地域には現在 3 つの集落があって、多くは小さな農家で、現在 140 戸 530 人が暮らしている。かつては百数十人が在籍した小学校や保育園が存在したが、児童数の減少とともに統合・廃止され現在に至っている。少子化が急速に進むなか、この地域も人口が減少し、急激に高齢者世帯が増えている。やがて世帯数の減少へとつながり、「限界集落化」も遠いことではないように思えます。



○ 当面する事業の目的は「農村景観の醸成で "小さな観光"」を！

当地が豪雪地帯であることを考えれば、もう一世代を経過する頃には 2 割程度の戸数が減少することが確実に予測されます。

活力を失った農村では“美しい景観を維持”することは難しくなることが考えられますが、幸いにも地域は交通の便に恵まれ、“地域を何とかしよう”とする人々がいます。雪国の特有の農村景観と人情・風情、そして歴史と文化を大切にしながら、地域丸ごとの“農村ミュージアム化”を進め、フットパスによる“小さな観光”を進めようとする企画です。

2 事業地域における現状と事業化の意義について

○ 地域の現状について

五箇地域は約 100ha の日常的な生活圏区域に、143 世帯と 531 人（H27 年 1 月末）の人々が暮らす地域で、小さな店舗・農家以外、工場・公共施設等のない地域です。集落の多くは小規模な兼業農家であり、収入源の多くは地域外の職場にあります。

営農形態は水田単作地域で、魚野川が運んだ堆積土と豊かな水源によって、魚沼地域でも評判の「美味しいお米」が生産されています。集落の西側を中心に三方を里山が囲み、東側は魚野川が流れ、周囲の大部分を魚沼市と境界を接しています。

また、江戸幕府を支えた佐渡金山と江戸を結ぶ重要な路線（三国街道）も地域内を通り、里山である「栃原峠」はかつての面影を今に伝えています。



村の鎮守様を通りかつての三国街道へ

○ 地域の課題

豪雪地域にあつて耕作地も比較的少ないこと、また近隣に優良な就労の場が少ないことから、次代を担う若者の定着が少なく、戸数の確実な減少が見えていることは地域の将来に大きな不安となっています。（今後の 30 年で約 2 割程度減少し、集落環境の維持が危惧される）



河川堤防も草刈で景観 up!

お米も美味しくなるかな

こうした状況は、地域の活力を更に減衰させ、やがて里山や農地の荒廃を招き、美しい農村景観をも破壊しかねない状況となっています。

地域には昔から各戸代表参加で行う集落維持のための共同作業も多く、耕作地域の道路・水路の草刈りや補修作業は、安全・安心な地域を支えてきました。里山地域など日常の維持管理は土砂災害などを未然に防ぎ、豊かな里山と農村文化を創り出してきました。

安全と安心、安らぎや潤いを必要とする現代社会にあつて、「農村らしい暮らしと景観」は地域の人たちにとってもとても重要な意味を持っています。持続可能な地域社会を維持するためには、催事や共同作業など一定以上の人数を必要としていますが、高齢化と少子化が同時進行する地域社会はいま大きな曲がり角を半分以上・・・すでに回っています。

○ 事業化の意義

フットパスを取り入れた“小さな観光”は、ありのままの農村集落と里山を開放し見せることにより、訪れる訪問者との様々な交流が生まれるはずです。そうした交流から“小さな経済サイクル”に結び付け、将来的な「小さな地方創生」へ繋がる思います。

集落では、人々を招き入れることの意識から「身近な農村景観」を良好に保ち更に向上させ、直接対話する交流することから、将来的な農産・林産品の経済交流へと発展させ、やがて農村らしい景観と利便性富む地域を生かした「二地域居住」や「移住・定住」へと結びつけたらと・・・妄想しています。できれば、今後減少が見込まれる戸数を上回る”新たな定住者を呼び込みたい”と思っています。

また、経済的交流は農林業の 6 次産業化へと発展する可能性を秘めていて、継続することで“小さいながらも地域を創生する新しい活力”が生まれると考えられます。

小さな箱庭のような農村風景と、そこに暮らす人たちが日常的な暮らしのなかで、そこを訪れる人々を自然に迎え入れ、交流し、更なるエネルギーを受け取る仕組みは「小さな地方創生」へとゆっくり・確実に繋がると考えます。



優良な住宅地供給の提供は可能です

3 期待と効果について

○ 事業化による期待

短期間に大きな資本投資がないことから、農村ミュージアム化とフットパスは即効的な効果は少ないと考えられますが、現代社会のニーズを考えると“農村社会による小さな癒しを提供できる”この地域には、確実な誘客と地域の活性化に期待が出来ると考えます。

- ① 農村ミュージアム構想に取り組もうとする組織の結成と活動は、地域の活性化に大きなインパクトを与え地域コミュニティに大きな活力を与える。
- ② 旧三国街道の整備は地域における里山文化を復興させ、小さくなった生活圏区域をもう一度広げることが出来る（林地の活用など）と考えます。
- ③ 人々を招き入れようとする気持ちは、住宅周辺をはじめ農耕地やあぜ道、水路などの草刈等、維持管理機会が多くなって農村景観が美しく豊かになる。
- ③ 訪れる人たちとの交流から、農産品などの経済的交流、またリピーター等が生まれ、フットパスコースの周辺拡大やガイドの需要など・・・、良好な循環が生まれる。地域の活性化と農村ミュージアム化は、将来的な農林業の 6 次産業化へとつながっていくと考えられます。

夢は・・・

開かれた農村環境では更に交流が進み、新たな農産品市場や農家カフェなど地域資本による起業が発生し、やがて地域的魅力と相乗効果をもたらし、移住や定住希望者が現れると期待されます。（供給可能な住宅地は十分確保済み）

期待を含めた効果として・・・、戸数の自然的減少を上回る新規定住者、I・U ターン者が増加することは夢でしょうか。

4 事業目的と事業の対象地域について

○ 事業の目的と対象地域

初期の目的は、①小さな農村集落へ人々を招き入れる仕組みを作り、中期的には②適度な集落規模の維持と③持続可能な経済的サイクルを作ること、将来的には④小さな観光と地域農業を安定的に持続させることが最終目的と考えます。

現状ではこうした人の流れが見えていないなかであって、即効的な効果は期待できませんが、まずは " 小さな誘客の仕組みとフットパスによるきっかけ " 作りを当面の目標とします。

また、事業の対象地域は新幹線駅のある「浦佐西山地域から五箇地域」とします。

・ 具体的な目標として

2017 年の無雪期 7 ヶ月における誘客目標（試験的実施）

誘客目標 30 人／週として × 28 周 = 840 人

ガイド件数 来訪者の 10%として（840 人×0.1）

84 件×@2,000 円 = 168,000 円

農産品購入 来訪者の 30%として（840 人×0.3）

252 人×@1,000 円 = 252,000 円

（次年度以降受入れ体制の整備によって着実な増加を図る）

○ ニーズとシーズから（イメージとして）



○ 事業地域における取り組みの概要について

具体的な事業地域は旧三国街道を主体としたフットパスコースの周辺で、浦佐西山地域と五箇地域を主要フィールドとし、誘客の対象は中高年世代と女性とする。

事業は、フットパスコースの設定と、迎え入れようとする意識の地域的醸成から豊かな景観形成を進め、農業産品など経済交流と将来的な移住者・定住者の受け入れにあります。

初年度の事業概要(希望的)は以下のとおりです

- ① 具体的な誘客手法として「フットパスコース」の設定とコース整備を行う。(初期投資として 200 万円)
- ② 地域内にフットパスに応じた環境整備と地域づくりを行う実行委員会を立ち上げます。
- ③ 域内周辺の案内表示の設置と地域の連携により楽しめるコース作り及び地域ガイドの養成を進める。
- ④ コース図の作成と、広く知らせるため HP 等の掲載とイベントの実施を行う。



○ 事業の推進組織について

事業主体は「浦佐地域づくり協議会」となって、協議会内に「フットパス実行委員会（仮称）」を組織し運営・整備を推進する。

【浦佐地域づくり協議会】とは

合併後の 2008 年に設立され、行政と市民・行政区を結ぶ中間組織で、市内全 12 地区に設置された「地域コミュニティ組織」です。浦佐地域づくり協議会は、15 行政区 1,600 世帯、約 4,500 人で、組織は各行区の代表・団体の代表・地域の活動家、市議会議員など 30 名程度で構成されています。

基礎的な運営費の多くは市からの交付金で賄われ、拠点となる公共施設の管理、軽敏な道路・水路等の補修、その他公共物の維持管理と補修・設置、各種コミュニティイベントの企画実施等を行い、事務長 1 名が「雪国おくにじまん会館」に常駐します。

【フットパス実行委員会（仮称）】とは

地域づくり協議会内のプロジェクト事業として、特に関係する 6 行政区の代表及び地域で活動する有志、協議会の委員含め 20 名程度の実行委員会を組織する予定です。

実行委員会では、旧三国街道を中心とするフットパスコースの整備（荒廃しジャングル化している箇所もあり）と周辺整備、コース図などの作成、「農村ミュージアム化」のため農家・農園の協力依頼、地域の勉強会などを行いたいと考えています。

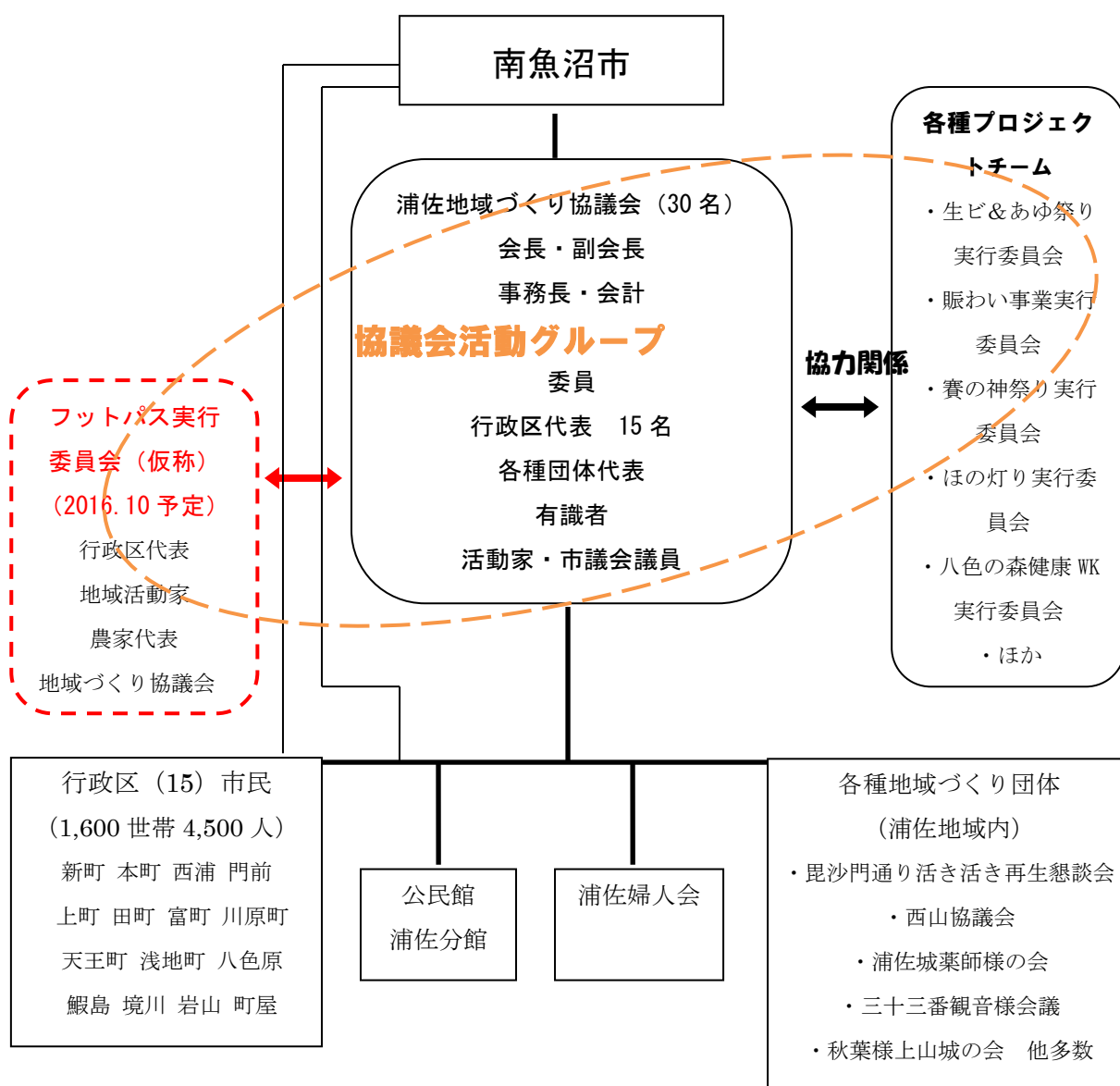
5 実施体制について

○ 実施体制

事業の実施には実行委員会組織が中心となって、協議会内に幾つかあるプロジェクト事業のひとつとして進める。関係する 6 つの行政区代表及び地域の農家、地域活動家・婦人など幅広い層から協力を得るなかで進め、事務局は地域づくり協議会が当面担当予定である。

実行委員会に参加する委員・区民の多くは、豪雪地域における中山間地域の農家集落の共通課題である「集落維持と存続」について切実な問題として捉えていて、地域の魅力を小さな観光である「フットパス」という手法によって交流に結び付け、“まずは地域を知ってもらいたい”という共通した考えを持っています。

戸数の減少を止める可能性を秘めた将来の「二地域居住・暮らしの複線化」、また「移住・定住」へと進めたいとする共通の理解を持っていて、着実に継続できる実行体制づくりが可能とされます。



6 事業スケジュール（概要）について

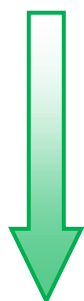
○ 当面（2016～2017 年）するスケジュール

- ① フットパスコースを整備・維持管理を行う実行委員会組織の立ち上げ
20 名規模による 2016 年 10 月
- ② フットパスコースの設定と整備（コースの一部は造成と林地伐採が必要）
浦佐駅から旧三国街道を經由し JR 上越線八色駅までの約 4.5km を設定（済み）
フットパス協会と協議・現地踏査をするなかで決定（実施済み）
草刈機・チェーンソー等の導入、標識等の設置 2016 年 10 月
- ③ コース周辺地域の理解と協力依頼
旧街道コースの多くは未整備・未舗装であることから、草刈や安全管理が欠かせない。また、休憩・トイレ・給水等の立ち寄り協力、地域案内等々。

2017 年中の実施

- ⑤ フットパスコース図の作成とホームページ掲載 2017 年 1 月
- ⑥ 地元ガイドグループの立ち上げと研修 2017 年 6 月

○ 長期的なスケジュールとして考えられるもの



- ・ 休息施設、トイレ施設の整備、小さな農林産品市場の設置
- ・ 集落丸ごとの農村ミュージアム化を進める（景観等の取り決めと農耕地・作業場の解放）
- ・ 休憩施設の誘致と建設
- ・ 里山交流のメニュー化とコース増設と拡張
- ・ 6 次産業化を目指した商品開発と農家カフェなど新規起業の促進
- ・ 移住・定住者の相談と土地の斡旋と地域溶け込み計画の実施
- ・ クライングガルテンの設置・建設

地域の自立へ

7 収支計画について

事業全体では長期にわたるものであり、投資の多くは地域住民の日常的な関わりと個々による日常的労力投資であることから、収支全体としてのバランスは当面難しいと考える。

事業初年度の収支計画は、（申請書に示す通り）補助金・出資金等による事業計画であり、翌年度以降の誘客と農村景観の醸成への投資である。補助金等による投資は、地域の住民が「農村地域の自立を目指す行動」のきっかけであり、大切な地域資産である「農村景観」の醸成に大きく寄与すると同時に災害から地域を守る取り組みであると考えます。

8 その他・参考資料

○ フットパス foot path とは（日本フットパス協会 HP から転載）

「フットパス」とは、イギリスを発祥とする“森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からある、ありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】”のことです。イギリスではフットパスが国土を網の目のように縫い、多くの国民は積極的に歩くことを楽しんでいます。

近年、日本においても様々な地域において、各々の特徴を活かした魅力的なフットパスが整備されてきています。



写真は市内で実施されるウォーキングイベントによる



○ 参考資料

＜迂回山路の復旧＞

旧三国街道の「浦佐宿」と五箇地域の間には、魚沼丘陵の山地が直接魚野川に接する箇所があり、川の流れは洪水等の度に街道を削り、街道の難所となって“へつり”と呼ばれていました。

そのため、“へつり”の街道には迂回路が設けられ小高い山地を通る小路が用意されていました。

新たな道路と鉄道の開通により、日常の生活道路として利用が無くなりましたが、それでも里山へ分け入る小路として利用されていました。

その後、新たな鉄道工事により迂回路の一部が切断されたことから、現在はまったく利用されることがなく、雑木等が繁茂し荒廃し放置されていました。

今回の事業で、かつての迂回路を再整備し「フットパスコース」として甦らせます。

（当該地は浦佐宿と堀之内宿の間に位置します）

最初の＜フットパスコース＞は・・・

当初のフットパスコースは1路線4.5kmを計画しますが、整備後には更に面的な広がりを予定し、その後周辺部分へと拡大を図りたいと考えています。

コースのうち約3km区間は旧三国街道となって、歴史街道でもあることから標識等の意匠にも配慮します。迂回路は急勾配であること、新幹線・在来線・現在の一級国道などの景観は一望のもとに対比が出来ることから興味をそそります。



現代の街道(新幹線)と迂回路の入口(左の山地へ)



迂回路の整備が終わると

こんな山路になります

<旧街道の維持管理>

生活様式の変化と集落人口の減少は、かつての生活道路である旧街道や里道をも荒廃させます。夏草が生い茂る旧道を常時歩けるようにするためには、シーズンに数回程度の草刈り作業が必要となります。

こうした里道を維持管理することにより、結果的に私たちの生活圏を広げることとなって、豊かな里山の恵みを享受することに繋がります。



<集落内の風景>



<農村ミュージアム構想>・・・とは

豪雪地域の小さな農村を " 地域丸ごとミュージアム化 " する構想で、農村と里山の景観、田園の耕作風景、野菜や山菜畑など農村地域の日常を公開しようとするものです。

屋内展示と異なり、来るたびに何処か違うミュージアム、近寄り触れられる展示、場合により体験できる農村集落を目指します。

例えば・・・

田圃のあぜ道を歩ける、イネや水田の雑草を間近で見られる。

ナスやキュウリ、パプリカなど触れることができる 生かじりができるかも

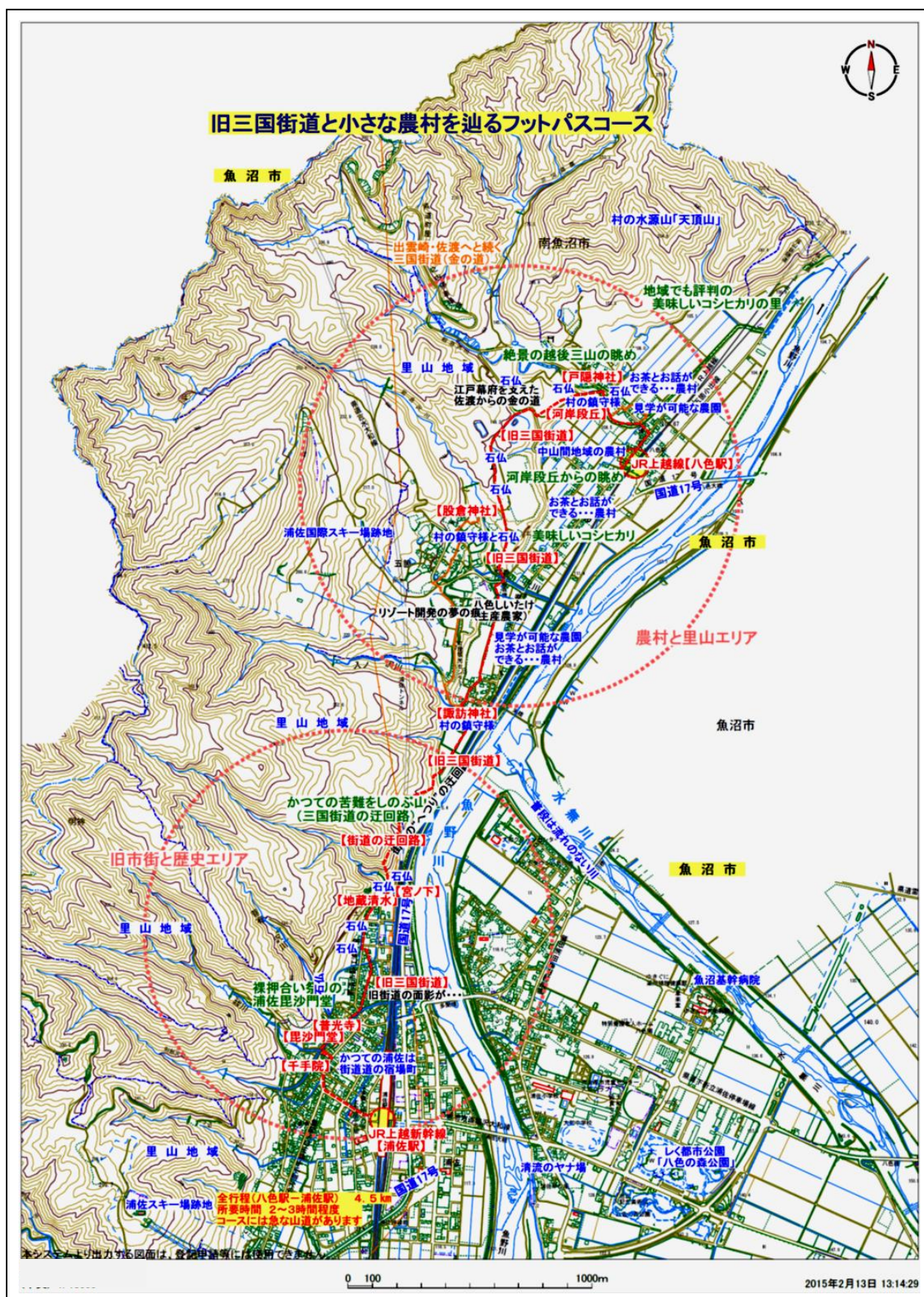
山菜を採ることができる、食べることができる 農家カフェの利用も

農家の手伝いができる（農家体験） 農作業施設が覗ける

神社の木陰でお昼寝ができる 虫取り、魚釣りができる 里山散歩 ……

こうした現場での交流から、農山村の理解と地域「農産品」の購入などへつなげ、シルバー世代など地域への移住・定住へ結び付けたい。

旧三国街道を辿るフットパスコース（概略図 A4）縮小版



参考資料として

フットパスコースの設定費用（概算）と今後について

2016.9.1

基本となる旧三国街道コースの整備と設定

基本コースは（最初の試験的コース）

- ① 浦佐駅→八色駅周辺スタートし、② 普通の農村 ③ 集落の神社 ④ 河岸段丘
⑤ 旧三国街道 ⑥ 旧街道の迂回路 ⑦ 浦佐の市街と毘沙門堂… ⑧ 浦佐駅

1 フットパス基本コース（旧街道コース）の設定

① 迂回路の整備（道付け完了）

- ・階段ステップの設置 50 組程度 25 万円程度
- ・湿地・水路に木道の設置 30m程度 30 万円程度

2 コース案内表示

- ・ルート案内表示 50 本 30 万？
- ・集落等案内表示 25 枚 20 万？



案内します

トイレ貸します

休憩できます

3 コース案内図作成

- ・A4 両面カラー印刷 コース図 + 地域紹介 20 万円
- ・SNS 掲載資料作成 地域説明 リーフレット ビデオ映像 … 25 万円

4 農村景観維持作業

- ・コースの草刈・整備等の日常管理 地域づくり
- ・耕作地域の草刈管理 農家
- ・居住地域の景観維持活動 地域住民
- ・歩行型草刈り機の導入 1 台 共同利用 ハンマーナイフ型 800 ミリ 50 万円
当初の投資費用… 200 万円程度

5 以降の整備計画

- 休息施設の設置 雨宿り・休息場 和風のカフェ・東屋
- 公衆トイレの設置 五箇地区内に 1～2 箇所設置
- 駅駐車場を兼ねた駐車スペースの設置 20 台程度（300 m²）
- 見晴らし台の設置 河岸段丘 + 街道
- 農業体験・グリーンツーリズム、田舎暮らし・お試し居住の相談、宅地等取得斡旋
- 草刈等管理機の導入
- 個々の取り組みとして… 休憩所・農産物等販売所、カフェ… など